

# 産科・婦人科 卒後臨床研修プログラム（産婦人科（必修／選択））

## I 研修プログラムの目的及び特徴

女性のライフサイクルとこれに関連した疾患についての理解を深め、一般的な疾患について自ら診断を行い治療の方針をたてることができることを目指す。さらに、分娩の管理や介助あるいは良性腫瘍手術など、おもな疾患については手術・治療にも参加する。これにより、救急当直などで女性患者を診る際に必要な知識と臨床技能を習得できる。

## II 研修プログラム責任者

プログラム責任者： 碓井宏和（教授）

## III 研修指導医（専門分野）

研修担当責任者

指導医：

甲賀かをり（教授、生殖内分泌）  
碓井宏和（診療教授、腫瘍）  
楯真一（診療准教授、腫瘍）  
石川博士（診療准教授、生殖内分泌）  
尾本暁子（診療講師、周産期）  
中田恵美里（診療講師、周産期）  
錦見恭子（診療講師、腫瘍）  
岡山潤（助教、周産期）  
松岡歩（助教、腫瘍）  
羽生裕二（助教 腫瘍）  
  
中村名律子（助教 腫瘍／生殖内分泌）  
長澤亜希子（助教 周産期）  
佐藤美香（助教 周産期）  
金子明夏（助教 生殖内分泌）  
佐藤明日香（助教 生殖内分泌）  
廣澤聡子（助教 周産期）

## IV 研修プログラムの管理・運営

研修プログラム責任者が管理運営する。

## V 募集定員

1か月における定員 約3名

## VI 教育課程

## 1. 期間割と研修医配置予定

研修期間は1か月－11か月

大学附属病院産科、婦人科で研修を行う

## 2. 研修内容と到達目標

### 一般目標

女性患者に常に妊娠の可能性を考慮し、女性特有の疾患による救急医療の初期診療、女性特有のプライマリケアおよび妊産褥婦の医療を行い、プライマリケアおよび救急医療において、妊娠および婦人科疾患を合併した患者を鑑別し、必要に応じて専門医に紹介できる基本的知識、臨床能力および技能を修得する。

### 行動目標

#### A. 経験すべき診察法・検査・手技

##### (1) 基本的な診察法

###### 医療面接

女性患者には常に妊娠の可能性を念頭に置き、病歴（主訴又は来院の目的、現病歴、家族歴、月経歴、結婚、配偶者歴、妊娠、分娩歴、既往歴）の聴取と記録ができる。急性腹症において、婦人科疾患（骨盤内腫瘍の茎捻転および破裂、異所性妊娠）を疑い、診断あるいは専門医にコンサルトできる。

###### 《身体診察》

###### 産婦人科的診察

##### ① 婦人科的診察

外陰部の視診、必要に応じて触診ができる。

腔鏡診：腔鏡を用いて子宮腔部、腔壁の視診ができる。必要に応じて細胞診用の検体を採取できる。

狭義の内診：腔入口部、腔壁、腔円蓋の触診ができる。

双合診：子宮、付属器の触診ができる。

##### ② 産科的診察

外診：全身状態、乳房の観察、腹部の視診ができる。

Leopold触診法ができる。

聴診：超音波ドプラー法で胎児心音が聴取できる。

内診及び双合診：外子宮口の開大に関して触診できる。

###### 産婦人科的診察視診

〔(腔鏡診を含む) および触診 (外診、双合診、妊婦の Leopold 診察)]  
を行える。

##### (2) 基本的な臨床検査

以下の検査を、

A=自ら実施し、結果を解釈できる。

B=自ら実施し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる。

C=指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる。

- ① 妊娠反応 (A)
- ② 子宮頸部の細胞診 (B)
- ③ 妊婦における胎嚢、胎芽、胎児の(経腹、経膈)超音波検査 (B)
- ④ 女性患者の放射線検査の実施に際して、妊娠時の制限を考慮して行える (B)
- ⑤ 婦人科疾患、急性腹症における経腹、経膈超音波検査 (B)
- ⑥ 胎児心拍モニタリングなど胎児胎盤機能検査 (B)
- ⑦ コルポスコープの手技とその解釈 (B)
- ⑧ 基礎体温の測定とその解釈 (B)

### (3) 基本的手技

A=自ら実施できる

B=専門家の指導のもと実施できる

- ① 注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保)を実施できる。(A)
- ② 採血法(静脈血)を実施できる。(A)
- ③ 穿刺法(腹腔、ダグラス窩)を実施できる。(B)
- ④ 導尿法を実施できる。(A)
- ⑤ 浣腸を実施できる。(A)
- ⑥ ドレーン・チューブ類の管理ができる。(A)
- ⑦ 胃管の挿入と管理ができる。(B)
- ⑧ 局所麻酔法を実施できる。(B)
- ⑨ 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。(A)
- ⑩ 簡単な切開・排膿を実施できる。(B)
- ⑪ 皮膚縫合法を実施できる。(B)
- ⑫ 子宮頸部、体部細胞診が実施できる (A)

### (4) 基本的治療法

- ① 妊産褥婦における薬物の作用、副作用、相互作用、禁忌について理解し、妊・産・褥婦に対する薬物治療ができる。(B)
- ② 帝王切開、付属器摘出術、腹式単純子宮全摘術などの産婦人科手術療法 (B)
- ③ 正常分娩経過の観察と分娩介助 (B)
- ④ 産婦人科救急疾患に対する初期治療を実施できる (B)
- ⑤ 女性特有の疾患に対してプライマリケアを実施できる (B)

### (5) 医療記録

- ① 診療録（退院時サマリーを含む）を POS（Problem Oriented System）に従って記載し管理できる。
- ② 処方箋、指示箋を作成し、管理できる。
- ③ 診断書、死亡診断書（死体検案書を含む）、その他の証明書を作成し、管理できる。
- ④ 剖検所見の記載・要約作成に参加し、診療の向上に役立てることができる。
- ⑤ 紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。

## B. 経験すべき病状・病態・疾患

### （1）症状

全身倦怠感  
食欲不振  
体重減少  
体重増加  
浮腫  
動悸  
腹痛  
腰痛

### （2）疾患・病態

ショック  
急性腹症  
貧血  
流・早産および満期産  
妊娠分娩と生殖器疾患  
妊娠分娩  
[正常妊娠、異常妊娠および分娩（子宮外妊娠、流産、早産、多胎、fatal distress）、産科出血、乳腺炎]  
女性生殖器およびその関連疾患  
[月経異常、思春期・更年期障害、外陰・膣・骨盤内感染症、良性腫瘍（子宮筋腫、卵巣良性腫瘍、子宮内膜症、他）悪性腫瘍（子宮頸癌、子宮体癌、卵巣悪性腫瘍）]

## C. 特定の医療現場の経験

### （1）救急医療

- ① バイタルサインの把握ができる。
- ② 重症度および緊急度の把握ができる。
- ③ 専門医への適切なコンサルテーションができる。

### （2）予防医療

- ・ 予防医療の理念を理解し、地域や臨床の場での実践に参画するために、 性感染症（エイズを含む）予防、家族計画指導に参画できる。
- ・ 地域検診（子宮癌検診）に参画できる。

## Ⅶ 週間研修スケジュール

曜日	午前	午後
月曜日	症例検討会、新患外来勤務、病棟勤務、手術	専門外来勤務、病棟勤務、手術 産科カンファレンス
火曜日	抄読会、手術	手術、病棟勤務、専門外来勤務、生殖内分泌グループカンファレンス
水曜日	症例検討会、新患外来勤務、病棟勤務、手術	手術、専門外来勤務、病棟勤務、腫瘍グループカンファレンス
木曜日	手術	手術、病棟勤務、研究カンファレンス
金曜日	症例検討会、新患外来勤務、病棟勤務、手術	手術、専門外来勤務、病棟勤務

## Ⅷ 評価方法

産科・婦人科研修プログラム終了時に産科婦人科に関して指導医及び研修担当責任者が評価する。